

地震防災教育

家庭の備えから

防災・減災

発行所：はやぶさ地防会
 編集者：代表者 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878
 FAX 0561-51-2879

近いうちの発生が懸念される南海トラフ地震は、震度7以上の大被害に備える「減災館」とも、東山ビルパスに開設した。建物全体を人工的に揺らす装置を地下部分に設置。建物内には、震度3から4程度の揺れを体感できる建物自体も実験台として活用できる。

防災研究多角的

大規模災害に備え、防災研究や市民教育の拠点となる「減災館」。



「揺れる」減災館

最先端の設備で大地震の被害を減らす「減災」の研究を進める名古屋大(名古屋市中区)の減災館が完成し一般公開された。



減災センターの吹き抜けにある、南海トラフ地震で想定される津波の高さを示した重水幕。伊勢湾の3.4メートル、知多半島の4.2メートル、紀伊半島の7.7メートルなど、津波予想が示されている。



ふだんは、企業やさまざまな分野の研究者が連携して災害対策を研究する減災連携研究センターが入り、研究拠点とする。市民向けの防災教育にも活用する。

市民活動支援助成金
 プレゼンテーション
 公開審査会
 平成26年5月10日(土)開催された。はやぶさ地防会から代表として副会長の筑間氏が26年度事業計画と予算案を発表。合格通知も決定された。御苦勞様でした。

施設変動や液状化活動層などの仕組みを紹介するパネルや模型も、親子も向け資料の展示、歴史資料や書籍新聞の閲覧コーナーを設ける。今年度数回は建物も揺らして、効果測定したり、揺れが建物に与える影響を顕微鏡で観察できる。開館後、地震に強い建物設計に注力する。



安全上の問題などから揺らす際は一般開放し、職員が監視しながら、防災体験などの際、観客が外から建物揺れの様子を観察する。



2014.05.19

2014.05.10